

## 各ワーキンググループ第1回の意見について

## 【製造所・屋外タンクWG】

ガイドラインに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでも類似の調査が多く実施されているので、その中から本ガイドラインで記載すべき内容をヒアリングできる施設を選定してはどうか。</li> <li>・これまでの既存調査と重複することがないように、既存調査ではどのような調査が不足しているか把握した上で、本検討を実施してほしい。</li> <li>・ガイドラインでは被災状況だけでなく、具体的な対応策も記載してほしい。</li> <li>・各委員の方からの知見も得て記載してほしい。</li> <li>・これまでの指導と連続性を持たせたガイドラインにしてほしい。</li> <li>・東日本大震災では地震動および津波により被災したが、既存の対策や現場の対応が功奏し被害を抑制できた事例なども記載してほしい。</li> </ul>
調査内容に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外タンク貯蔵所のスロッシングによる被害は、被災地以外の事業所でも今後の災害に備えた対応を行っている可能性があるため、調査対象に被災地以外の事業所を含めてはどうか。</li> <li>・製油所被害は仙台・鹿島・市原辺りに多く見られた。調査先の負担を考慮して、調査内容を選定してほしい。</li> <li>・震災後の指導の実施状況についても確認すべき。</li> <li>・津波の浸水深の想定についても確認してほしい。</li> <li>・スロッシングによる被害の事例を情報提供したい。</li> </ul>
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「事業形態によって二次被害を防止するために対応が必要な施設」などわかりやすく表現してほしい。</li> </ul>
保安室・事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奏功事例、経験、被災後の対応状況などをガイドラインに盛り込み、全国の事業所に情報提供したい。また、コンビナート等では二次被害の影響があるため緊急時対応が求められるが、混乱した状況の中で対応すべき内容の優先順位を把握したい。</li> <li>・本ガイドラインは、事業所の自主的な取組みについての事例を紹介し、企業の自らの事業所における取組みの参考にしてほしいと考えている。また、被害はなくとも緊急点検の際に戸惑ったなどの課題についても記載していきたい。</li> <li>・被害のなかった地域においても、参考となる取組みを実施している事業所があると思われるので、被害のあった隣接地域や消防機関を紹介をお願いしたいと考えている。アンケート調査はあくまでも現地調査先の選定を目的としている。</li> </ul>

【一般取扱所等WG】

ガイドラインに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所毎に想定される津波の浸水深に応じた対策及び対応が、事業者の関心事だと思う。</li> <li>・過去の震災ではどのような対応をしていたのか参考にすべき。</li> <li>・人命確保が最優先の命題であり、避難に関しては事業所の重要事項である。また、事業所が二次災害を発生させないために実施した事項等も重要。</li> </ul>
調査内容に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害や事故の有無等のナイーブな内容について事業者は答えにくい。</li> <li>・事業者から情報を収集する際は、外力の大きさ（浸水深、震度等）ごとに区分して行う必要がある。</li> <li>・危険物施設の被害は、地震ごとに異なる。本 WG は過去の震災全般ではなく、東日本大震災の教訓等を収集するという趣旨と理解している。</li> <li>・一般取扱所を事業形態等で区分して取りまとめる必要がある。</li> <li>・津波被害を受けた事業所では、地震被害と津波被害を区分するのが難しいのではないかな。</li> <li>・業務は既存資料の整理→不足部分の確認→実態調査で不足分の補完という形で進めるのがいいのではないかな。</li> </ul>
その他意見	
保安室・事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドラインの構成は事業者の規模及び事業形態に応じて、災害後の復旧に資する優良事例や対応の優先順位等を紹介するものを作成する。</li> <li>・実態調査対象は H23 年度消防庁調査の結果等を活用し選定する。また、被害がない事業所において実施されている優良な取り組み等も収集したいと考えている。</li> <li>・アンケートはヒアリング対象を選定するための手段という位置づけ。アンケートの統計処理等は考えていない。</li> <li>・東日本大震災が中心となるが、他の震災事例も紹介していきたい。</li> </ul>

【給油取扱所等WG】

ガイドラインに関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災では警察との連携、ローリーの燃料（軽油）の確保、土地勘がないため、荷卸先がわからない、常置場所の変更、管理者責任、フリーのローリーが少ない等の事項に苦慮したのでガイドラインに記載してもらいたい。</li> </ul>
調査内容に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険物に関する法令が災害時には復旧の足かせになることもあるのではないか。</li> <li>・資源エネルギー庁の災害対応型中核SS等事業が進められているが、復旧に関する事例を収集しておけば参考となるのではないか。</li> </ul>
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の規制緩和措置の検討も必要ではないか。</li> <li>・災害時の現場では法規制を遵守させることは困難。</li> <li>・災害時に危険物施設を運営しなければならない事業者が、法に抵触しない状態にしておくことが必要。</li> <li>・給油取扱所の問題（被害の程度、現場の状況、法令整備の状況等）整理はどの程度進んでいるのか。</li> <li>・行政機関においては、自家給油取扱所の整備等も必要ではないか。</li> <li>・危険物規制の思想は、長期的なリスクを低減することである。災害時の短期間の取り扱いと、平常時の長期間の取り扱いを分けて考える必要がある。</li> </ul>
保安室・事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドラインの趣旨は災害発生から復旧までの参考資料を提供することである。他の国の検討会（東日本大震災を踏まえた仮貯蔵・仮取扱い等の安全確保のあり方に係る検討会等）でも検討しているが、災害時は、『臨時的な取り扱い』と『復旧のための安全確認』が平行して行われていると思われる。</li> <li>・ガイドラインはベストプラクティス（好取組）集をイメージしている。</li> <li>・被災地の流通確保については、他の委員会等で議論中。他の地域からの救援活動が円滑に実施されるよう検討している。</li> </ul>